



ご挨拶



住職 網代 正孝

今あるいのちはご先祖のおかげ 自分を見つめ、阿弥陀仏に感謝する

もうすぐ春のお彼岸です。春のお彼岸は3月18日から24日までの1週間。お彼岸はご先祖と阿弥陀様に感謝する1週間です。今ある「いのち」はご先祖のおかげです。ご先祖は阿弥陀様の光の中で私たちを支えてくれます。

お彼岸は「私を支えてくれてありがとう・南無阿弥陀仏」と合掌する1週間です。3月21日(お中日) 正午から合同彼岸法要をいたします。どうぞご家族おそろいでお出かけください。お汁粉などのお彼岸接待は20日・21日と連日行います。

南無阿弥陀仏を味わう

私を見つめ、生かされていることに感謝する
「南無阿弥陀仏」
すべて私のいのちを、お任せする

「南無阿弥陀仏」
南無は感謝することお任せすること、
久遠の彼方からの「いのちの光」が阿弥陀仏

感謝は「見えない」が感謝する行いは「見え

る」それが布施です。

お布施はお金だけではありません。お釈迦様の教えに「無財の七施」があります。何もなくても次の七の布施は誰にでもできます。当寺のパンフレットにも載せてありますが、今回、お彼岸の布施として、皆様に小冊子としてご用意しました。お持ち帰りください。

無財の七施 雑法藏経第六・七種施因縁から

- 1 眼施(げんせ) 優しい眼で人に接する
 - 2 和顔(悦色)施(わがんえつじきせ) にこやかな顔で接する
 - 3 言辞施(げんじせ) 優しい言葉で接する
 - 4 身施(しんせ) 自分の身体でできることを奉仕する
 - 5 心施(しんせ) 相手の人の心になって思いやる
 - 6 床座施(しょうざせ) お先にどうぞと席をゆずる
 - 7 房舎施(ぼうじゃ) 一飯一宿の施し
- 以上が無財の七施です

今回、延浄寺世話人の小畑秀郎さんと白築賢二さんから原稿をいただきました。またデザインおよび印刷を同じく世話人の松尾博史さんにお願しました。



私と寺①

延浄寺と私(1)

延浄寺世話人 小畑 秀郎



延浄寺の住職網代さんとの知り合ったのは、今から三十年ほど前の昭和五十五年のことである。

当時網代さんは、調布六中で教師をなさっておられた。その頃日本列島には、少年非行の嵐が吹き荒れていた。六中でも朝の時刻には不登校だが、夕刻になると玄関あたりに集まる在校生や他校の中学生がいたり、屋上で流血事件が起きるなど不穏な空気が満ちていた。校舎内には吸い殻が散乱し、おびえる先生方や生徒たちも少なからずいた。

その頃私は、調布の(今はなくなったが)市民会議の教育文化部長の役職にあり、警察の少年係ともしばしば連絡があった。父親が企業人間に徹し、地域やこどもの教育から目をそらしているとき、学校が大きな悲鳴をあげていることを知った。

網代先生は大多数の先生たちが疲れはて、できれば教師をやめたいと言っているときに、生徒の生活指導という最も困難な役割を自ら担おうとされた。私はそのことにいたく感動し、心を激しく揺り動かされたのである。

今までPTAもなく、父親の出番も必要としなかった調布六中に、大急ぎでPTAを組織し、自ら会長に名乗りでたのも、網代先生の影響が大きい。

先輩が下級生に命じ、シンナー・パーティを開こうとした深夜、網代先生を引っ張りだし、未然に防ぐなど、大いに先生を利用させてもらった。ツッパリ君たちも「アジセン(網代さんのこと)が来たんなら、しょうがねえや」と行動を中止したことも、しばしばあった。

網代先生に触発された六中は、立派に立ち直っていく。その後、網代先生は退職された。

そして私も六中との関係は、半年足らずであった。父親も学校に関わったほうが良い、と信じるようになってほどなく、次男が六中を卒業し学校との関係がなくなりました。

ただ網代さんとの関係は切れずに続いた。家業である僧職にいそむかたわら、様々なボランティアに心を砕いておられた。そして、幸い私が住む国領から延浄寺はそう遠くはない。車だと十分ぐらいの距離である。私はひんぱんに延浄寺に通い、大いに話をした。

私は出会って以降、網代さんの生き方に共鳴し、それまで地方においていた先祖伝来のお墓を延浄寺に移し、宗派も浄土真宗に改めてしまった(折から田舎の墓地が、係争中だったことも決定打となった)。

網代先生にならどこまでもついて行こうと、思い定めたのには、ツッパリ君たちの心情に近いものがあつた、と最近しみじみ感ずるものがある。



予約受付中!

お墓の分譲予約

今年、複数の完成墓地をつくります。
価格は200万円から420万円です。
希望される方がおいででしたら、紹介ください。

私と寺②

門徒物知らず

延浄寺世話人 白築 賢二



「門徒物知らず」という言葉があります。浄土真宗の信者は、ひたすらお念仏をとなえ他のことは顧みず、大安、仏滅、日柄の善し悪し、方角、家相、その他もろもろの世間の常識を知らないことをあざけて言う言葉だそうです。浄土真宗の隆盛を妬ましく思った他宗派のものが言ったのかもしれない。物知らずどころか科学の発達した現代にも通用する立派な考え方、生き方です。

しかし、お葬式だけは、地域で取り仕切ることも多かったため、いろいろな宗派のやりかたをとり入れた折衷形で行われていました。近年は葬儀屋の商魂にのせられ、立派な祭壇や、たくさんの花に無駄な出費をさせられています。会葬に来た人も流れにのせられて、悲しむ暇もない状態です。

自分のお葬式は自分で設計しておきましょう。遺族は悲しみの中で、世間体を考えて余計な費用をかけたがり、因習にとらわれて無駄なことをしがちです。ただ葬儀費用を少なくすることだけでなく、一人の人間が生きたあかしを残しておくための応分の出費は覚悟しましょう。葬儀屋に支払うのは、減らしてしかるべきところへ寄付するのもよいでしょう。形式にとらわれない新しいお葬式をして、褒めことばとしてもう一つの言葉を言われるようになりましょう。「門徒物知らず」



私の葬儀・送儀

決めておくと安心

90歳過ぎれば葬儀の発想を変えてもよい

昨年の秋の彼岸から面談を行っています。記録は寺とご本人・ご家族が持参し「その時に問題なく」すすめるようにします。3年ごとに書き換えます。

今後毎月第3日曜日午後2時から予約の上相談いたします。

おおよその経費

葬儀社への支払い

葬儀社への支払いは火葬するだけでも30万円程度、簡単な花祭壇の家族葬で70万円から80万円程度、一般的には形式・価格は定価のようなものはありませんが、100万円から150万円程度です。これは飲食などは含みません。

寺への布施

お布施は個々の例によって違いますが、葬儀社支払いの5割程度が目安です。院号法名については、信心が篤く、多くの方に尊敬されていて、寺への貢献度も高い方に差し上げるのですが、貢献度ということ、当寺の院号法名布施は50万円をいただいております。院号・法名は本来ならば生きていられるときにつけるものです。浄土真宗を信じるブッティストネームです。亡くなってからの名前ではありません。院積〇〇となります。希望される方はご連絡ください。

寺への布施は「院号法名」以外は、あくまでも布施です。布施には定価がありません。けれども基準が無ければ、わからないということ、これ以上でもこれ以下でも問題はありませぬ。ただ安ければよいとする考えは、布施ではあり

ません。経済的に困りの方は、葬儀社への対応も含めて相談ください。

葬儀の発想を変える

90歳過ぎれば祝いの会にするのも

葬儀の形はこれから様々考えられますが、その方の人生が振り返られるような「送る集い」「別れの集い」悲しみを「感謝の集い」にしてもよい。

90歳過ぎて亡くなれば、長寿をいわいお祝いする感じで故人の往生を、また人生を拍手で送る会もよいのではないのでしょうか。通夜も葬儀も一緒にして、まず寺にご遺体を搬送して翌日朝家族だけで火葬にし、お骨にしてから、親族に集まってもらい、法事のような形で送(葬)儀を行う。

その後は故人の往生を祝う宴席にする。そして参加者は「このような人生を送ればいいね」と故人の活躍されていた頃のスライドショウなどを観て、人生の先輩から教えをいただく。葬儀は発想を変えて人生の完結を祝う会、故人を称える集い、お世話になった感謝の会にするのもよいと思います。葬儀社に支払う金は、お布施として社会貢献に使うとすれば、葬儀の発想が180度転回します。葬儀社が泣くかもしれないが、90年以上生きた方は、人生訓を残す、社会貢献をする。そんな葬儀を親のために企画されるのは、いかがでしょうか。10枚程度のスナック写真をお持ちになれば、いろいろできます。

他にも葬儀内容は考えられます。どのような内容にするか、当寺は担当を置き相談に乗っています。

「葬儀はいらない」も考えの一つですが、自分や親の葬儀を工夫するのもよいと思います。思い立ったとき行動する、これが浄土真宗の行動信条です。どうでしょうか。

お知らせ

油絵風の写真はいかがですか

油絵風の顔写真はなかなか良いものです。写真データを油絵風に加工し、カンバス地に直接印刷します。お好きな写真から、油絵風に加工できます。

油絵風の写真は葬儀の時も使えます。葬儀の時の写真は後でどこに置くか困っている方が結構多いのですが、この写真だったら、どこにでも置けるのではないのでしょうか。20〜21日にサンプルを展示します。サンプルに触れて感触を確かめてください。F4号(24×33cm)で25000円(税別)。F8号(38×45cm)35000円(税別)です。またこの機会に写真撮影を希望する方は、3月21日午後2時からカメラマンが撮影します。この日に限り、油絵風写真の製作を依頼する方の撮影費は無料です。皆さんもいかがですか。

ダバオへの

生きがい旅行

フィリピン・ダバオへ行くこと人生が楽しくなる様々な出会い、ふれあいがあります。あなたの役立つ存在を確かめて下さい。月日：6月6日(月)〜6月12日(日)費用：約15万円 お問い合わせ、お申し込みは 03-53384-9536 日本フィリピンボランティア協会 または延浄寺

お彼岸アルバイト募集

3月20日・21日午前9時から午後4時まで1日7000円です。希望される方は電話ください。定員になり次第締め切ります。